産科セミオープンシステム共通診療ノート

産科セミオープンシステムにおける妊婦健診の流れ

妊娠前期および中期の妊婦健診は基本的に健診施設（診療所）で行いますが、妊娠10週および20週頃の２回は分娩施設（病院）を受診してください。この時にリスクが高いと判断された場合は、以後の管理は分娩施設で行うことになります。

妊娠34週以降は産後１ヶ月健診まで分娩施設で管理します。

夜間休日等の緊急時には分娩施設を受診してください。

妊 娠 中 に 行 う 検 査

妊娠初期および中期の検査は健診施設で受けてください。後期の検査や再検が必要と考えられる検査は分娩施設で行います。妊娠34週で分娩施設を受診する際には、それまでの検査結果を健診施設からもらうようにしてください。

産科・セミオープンシステムとは

産科セミ・オープンシステムとは「普通の妊婦健診は近くの診療所で、お産は総合病院で」というシステムです。アメリカではこうしたシステムが常識化していますが、今後日本でも主流になると予想される診療スタイルです。

連携した近くの開業の先生（健診施設）で妊婦健診を行い、医療体制が整った病院（分娩施設）で安全・安心な出産ができます。

異常がある時は、すぐに優先的に出産予定の病院が対応します。

診療所と総合病院では以下のような特徴があります。

診療所 ちょっとした事でも質問しやすい、詳しく説明してくれる、家から近いので便利など。

総合病院 施設・スタッフがそろっており緊急事態に対応できる、特殊な検査・処理・治療ができるなど。

このシステムを利用していただくことにより、各々のメリットを十分に活用していただくことができます。

妊娠リスクスコアについて

妊娠分娩は100％安全なものではありません。突然お母さんや赤ちゃんの状態悪くなり帝王切開が必要になることもあります。安全なお産を求めるには、それぞれの妊婦さんが自分のリスクをあらかじめ理解しておくことが重要です。そこに妊娠リスクの自己評価表がありますので、妊娠初期と20週以降にご自分で採点してみてください。もしリスクスコアが２点以上のときは担当医に相談してください。

妊娠リスクスコアによる周産期予後判別

	低リスク群	中リスク群	高リスク群
帝王切開率（予定＋緊急）	4.3 %	15.7 %	43.6 %
緊急帝王切開率	3.4 %	6.6 %	17.8 %
分娩時大量出血率	3.3 %	9.4 %	21.6 %
輸血率	0.6 %	0.9 %	3.3 %
早産率（28週以前）	0.4 %	1.1 %	4.1 %
早産率（36週以前）	2.3 %	8.2 %	25.3 %
超低出生体重児率（1000g未満）	0.4 %	1.0 %	3.9 %
極低出生体重児率（1500g未満）	0.5 %	0.6 %	8.0 %
低出生体重児率（2500g未満）	4.2 %	12.0 %	33.1 %
重症新生児仮死率（APS 4 点以下）	1.3 %	2.2 %	7.3 %
軽症新生児仮死率（APS 7 点以下）	4.3 %	8.3 %	18.8 %
NICU 入院率	2.8 %	7.4 %	21.6 %
児死亡率（死産＋新生児死亡）	0 %	0.3 %	1.6 %

「産科領域における安全対策に関する研究」平成16年度厚生労働科学研究（主任研究者 中林正雄）